

JICA ボランティア ブラジルより 現地レポート



日系社会シニアボランティア
武藤 啓一
出身地：喜多方市
派遣国：ブラジル連邦共和国
職種：野球



野球の指導 (スライディング) をする武藤さん



フェスティバル・ド・ジャボンで大盛況だった喜多方ラーメン

活動地カンピナス市は、人口約100万人、ブラジル最大の都市・サンパウロの北東100km、標高700mの高原に位置しています。NHKで放映された「ハルとナツ・届かなかった手紙」のロケ地でもあり、トヨタやホンダの工場も設置されています。

配属先は、カンピナス市の「コロニア東山(とうざん)日伯文化協会(通称:TOZAN)」で、主な活動は、小・中学生への野球とソフトボールの指導を通じて、日伯の交流と文化の振興を図っています。赤土の球場で子供たちが黙々と練習を行い、真っ黒になり、泥んこになり、一緒に技術の向上を図っています。国内大会はもちろんのこと、ペルーの首都・リマで行われたソフトボール国際親善大会にも参加するなど、活躍の場を広げています。子供たちの練習を親がしっかり見ており、家族のふれあいを大切にしているところにブラジルの良さを感じます。

ブラジル福島県人会の方々と交流も行っており、7月に開催された北南米最大の日本祭り「フェスティバル・ド・ジャボン(※1)」には、喜多方ラーメンを出品し大成功でした。又、TOZANの母の日には、ソース焼きそばを披露しました。

また、ブラジルの滞在記念と活動の証に、サンパウロのカルモ公園に桜50本を植樹し、同期ボランティアが活動する現地の老人ホーム「あけぼの」には、桜100本とつじ120本の植樹を行いました。

1年を過ぎ生活にも慣れ、奥の深いブラジルを体験するとともに、これからもスポーツを通して、日伯の発展に貢献して行きたいと考えています。



カルモ公園での桜の植樹

※1 ブラジル日本都道府県連合会が主催する北南米最大の日本祭り。3日で約18万人の集客人員があり、各県人会が日本郷土食・郷土芸能祭りを披露する。

日系社会シニアボランティアについて

シニア海外ボランティア(満40歳から満69歳のボランティア)の中でも、特に中南米の国々で、日系人、日系社会の人々と、ともに生活・協働しながら中南米地域の発展のために協力するボランティア。募集は秋募集時(10月~11月)のみ。毎年7月から2年間派遣。



アラビア語で自分の名前を書いてもらい喜ぶ生徒

異文化体験学習「地球体験キャラバン」

「地球体験キャラバン」は、福島県とふくしま青年海外協力隊の会が行う異文化体験学習プログラムです。世界の国々の文化や生活について、単に話を聞くだけでなく、ゲームやクイズ、音楽などを楽しむことを通じて、異文化への理解を深めます。主に小中学生を対象に行っており、講師は県内在住の外国人や青年海外協力隊の経験者たちです。

大笹生養護学校で行われたキャラバンでは、生徒たちの興味に合わせて、世界の楽器・民族衣装・文字・遊びなどのグループに分かれ実際に体験することで異文化に触れました。最後はアフリカのリズムに合わせて、全員で輪になって踊りを楽しみました。

普段の生活では経験できない文化を全身で感じた生徒たちは、充実した時間を過ごすことができたようです。

地球体験キャラバンのお問い合わせ
福島県生活環境部国際課 電話：024-521-7182
メール：kokusai@pref.fukushima.lg.jp

福島県にゆかりのあるJICAボランティア

平成24年度 3次隊 (2013年1月出発)

福島県出身者や福島で学んだ、働いていた方などを紹介します。
①出身地 ②派遣予定国 ③職種



青年海外協力隊
鹿野 陽太 さん

①福島市 ②パプアニューギニア
③養殖

福島市で、毎日のように魚を捕りに川、沼に遊びにいていた自分が、養殖という職種で協力隊に参加できるようになりました。豊かな自然に囲まれた福島に感謝しつつ、任地では現地の人と楽しみながら養殖をやりたいと思っています。



青年海外協力隊
平野 さやか さん

①飯館村 ②キルギス
③日本語教師

これまで好きなことに邁進してきた私ですが、今また大きな夢を叶えることができました。震災後、世界中から寄せられた温かい支援に、私ができることで答えられたらと思っています。明るく元気に頑張ってください!



シニア海外ボランティア
河野 敏昭 さん

①福島市 ②ソロモン
③医療機器

互いの両親は既に他界、子供3人は結婚し孫6人。66歳の今まで、まずまずの人生を送らせて戴きましたが、このまま老いるのか?との惑いから「何か世の中の役に立ちたい」一心でシニアボランティアに応募しました。「まずまずの人生への感謝を込めて」私の支援を待つ人の為に行って来ます。

福島県出身JICAボランティア

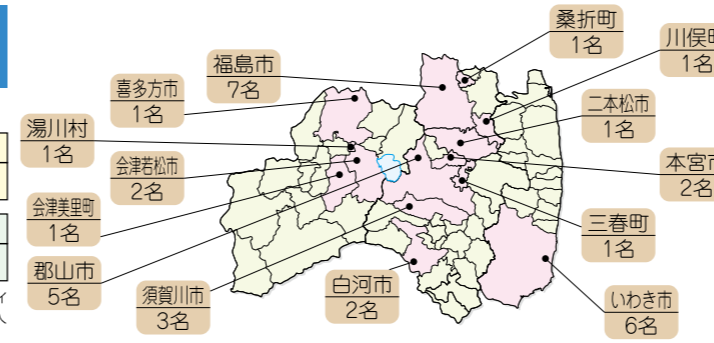
2012年10月31日現在

合計派遣中 48名 / 累計 634名

青年海外協力隊員数		日系社会青年ボランティア数	
派遣中	43	累計	577
派遣中	0	累計	9

シニア海外ボランティア数		日系社会シニアボランティア数	
派遣中	5	累計	43
派遣中	1	累計	5

※2011年冬号まで「あだたら」の青年海外協力隊員数・シニア海外ボランティア数には、短期ボランティアの人数を入れておりましたが、2012年春号からは改めて記載しております。また累計は延べ人数(複数回派遣を含む)になっております。



Information

12月~1月のイベント情報

12月13日(木)	平成24年度3次隊 派遣前訓練 修了式
12月22日(土)~31日(月)	平成24年度教師海外研修 (セネガル国派遣)
1月19日(土)	JICAボランティア帰国報告会・留守家族連絡会 場所：二本松市民交流センター (多目的室)

Pick up!

帰国報告会では、最近帰国したJICAボランティアによる現地での活動報告が行われます。一般公開となりますので、JICAボランティアに興味のある方は是非お越しください!併せて、隊員のご家族向けに留守家族連絡会も開催されます。



キミノチカラ、海をこえて~青年海外協力隊の道~ Saturday 8:30-8:55 出陣D.I.K.G. 録音・JICA二本松

JICAボランティアとして世界で活躍した県内在住の方々の派遣の動機や活動の様子、帰国後どのようにその経験を活かされているのか、その国の音楽ともにお送りしています。

☆番組ブログ、Facebookも随時更新☆
福島 郡山 81.8Mhz 会津 82.8Mhz
原町・いわき 78.6Mhz 白河 79.8Mhz

キミノチカラ、海をこえて

独立行政法人国際協力機構 二本松青年海外協力隊訓練所

〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2 TEL.0243-24-3200 FAX.0243-24-3214

募集・広報担当 E-mail: jicanjv@jica.go.jp JICA二本松

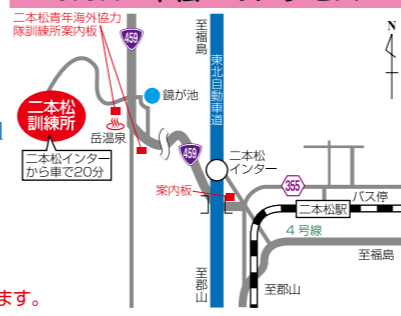
「あだたら」バックナンバーがWeb上でご覧になれます URL <http://www.jica.go.jp/nihonmatsu/office/pr.html>

読者の皆様へ
福島県内の小・中・高・大学等、会社、団体で行っている国際協力活動を紙面で紹介します。情報をお寄せください。

JICA福島デスク
〒960-8103 福島市舟場町2-1 電話 024-524-1315
公益財団法人 福島県国際交流協会内 FAX 024-521-8308
Email: jicadpd-desk-fukushimaken@jica.go.jp

※本誌に関するお問合せは、上記「JICA福島デスク」(八巻)までよろしくお願い致します。

JICA二本松へのアクセス



二本松青年海外協力隊訓練所 ニュースレター

あだたら



ニュージーランドの話に聞き入るグローバルセミナーセミナー参加者

特集 JICA二本松で世界を学ぼう
ふくしまグローバルセミナー2012



JICA二本松で世界を学ぼう

ふくしまグローバルセミナー2012が開催されました!

◎主催／福島県国際理解教育ネットワーク(FIENET) ◎構成団体／福島県、福島県教育委員会、(公財)福島県国際交流協会、JICA二本松

「ふくしまグローバルセミナー」は、国際的な場で活躍されている方々を、県内外から講師に迎え、参加者と講師がお互いに学び合うことを目的とした、国際理解のための参加型セミナーです。昨年は、震災の影響から規模を縮小し、日帰りでの開催となりましたが、16回目となる今年は新たな試みとして「1泊2日コース」と「日帰りコース」での開催となりました。約150名の年齢・性別・職業も様々な参加者が、セッションやグロセミカフェなどを通して国際的な視野を広めました。

1日目：9月29日(土)

基調講演 「国際協力における民間企業の役割とJICAの取り組み」

JICA民間連携室次長の柏谷亮(かしわやまと)氏を全体講師として招き「国際協力における民間企業の役割とJICAの取り組み」と題した基調講演が行われました。講演では、国際協力における民間連携の重要性について、具体的な事例を取り上げながら説明しました。



セッション 多様な講師をお迎えし、参加者は希望のセッションを受講しました。

セッションA

フェアトレード ～そのイロハ～
株式会社 ethicafe 代表 末永 早夏

ケビンと北半球の国カナダへ!～多文化社会への道のり～
(公財)福島県国際交流協会 国際交流員 ケビン シャ

うつくしま、福島 ～福島での24年の暮らし～
宮城教育大学 特任准教授 根本 アリソン

南半球の島国 ニュージーランドの話
いわき市国際交流員 クオン ナムヒー

ボツワナ・ブッシュマンの暮らしから学ぼう
福島大学 准教授 西崎 伸子
元青年海外協力隊・ボツワナ隊員 八巻 亜梨沙

セッションB

中東「ドバイ」～驚異的な発展の秘密と今後の展望～
川俣町立福田小学校(元ドバイ日本人学校教員) 相沢 周

オーストラリアの過去・現在・未来への旅 with ロッキー
福島県国際交流員 ロックラン トランター

ちいさな村から地球につながる物語
～国際ボランティアによる地域おこしの現場から～
NPO法人芋麻倶楽部(ちよまくらぶ)事務局長 尾崎 嘉洋

中国を知るといこと ～間違いだらけの中国論～
福島県(前福島県上海事務所)市村 尊宏
福島県(前JICA中国事務所ボランティア調整員) 鈴木 大介

ベトナムでの医療協力の現場から
福島県立医科大学 助教 ンゴマ マインドゥ アライン
福島県立医科大学 博士研究員 長谷川 美規

(敬称略)

★講師コメント NPO法人芋麻倶楽部(ちよまくらぶ)事務局長 尾崎 嘉洋さん

担当セッション：ちいさな村から地球につながる物語～国際ボランティアによる地域おこしの現場から～

★講師コメント 株式会社 ethicafe 代表 末永 早夏さん
担当セッション：フェアトレード～そのイロハ～

講座では、フェアトレードの基礎を学びながら「なぜフェアトレードが必要なのか」を体感するワークショップを行いました。10代から70代までの様々なバックグラウンドを持つ24名の皆さんと共に、白熱の90分となりました。日々の「買う」という何気ない行動ひとつひとつが、遠い国の貧しい生産者たちの生活にまで影響があること、また「何にお金を払うか」が私たちの社会を作り上げていることを再認識するきっかけになればと思っています。

★講師コメント 宮城教育大学 特任准教授 根本 アリソンさん
担当セッション：うつくしま、福島～福島での24年の暮らし～

私は平成元年から福島県の浜通りに住み、結婚して、娘3人の子育てをしながら、南相馬市や大熊町の教育現場で長年活動してきました。今までの人生を振り返ると、福島の良い自然と温かい人達に囲まれた生活は本当に最高だと思っています。そして、今回のワークショップで、参加者同士は福島県の新しいイメージやマークを考えながら、やはり福島県に対する気持ち、誇り、愛情はまったく同じと感じられました。グループで相談しながら色々な意見を聞くことができました。"今までは浜・中・会津、でしたが、今度は全員で力を合わせて頑張ろう" 転んだら、立ち直る、会津の起き上がり小法師みたいな"これからの福島県には多くの課題がありますが、同じ気持ちで取り組み、アイデアを共有し、力を合わせていけば、みんなが大好きな福島県が立ち直ると信じています。

ふくしまグローバルセミナーは、10代から70代まで幅広い世代の方々が集い、「地球」を共に感じ、語り、触れることの出来る貴重な場だと思います。地球に生きる「自分」と向き合い、新しい時代に向けて「地球」を舞台に自分たちが出来ることはたくさんあるでしょう。このセミナーがこれからも地球を語り合える仲間たちとの出会いがひろがる場になりますように! 昭和村から地球につながる物語と一緒に創りたい方もぜひお待ちしております!



グロセミカフェ セミナー参加者による活動紹介

夜の時間には、国際交流・国際協力の活動を行っている参加者による、活動紹介の時間が設けられました。会場に準備された美味しいフェアトレードコーヒーを片手に、参加者間の交流が深まりました。ラオスの子どもたちへ絵本を贈るプロジェクトについて、説明を聞く参加者



2日目：9月30日(土)

自主セッション セミナー参加者による講座

参加者による参加者のための講座「自主セッション」では、国際的な活動に興味のある参加者が講師となって、自身の経験や、世界の現状を知るためのワークショップが行われ、活発な意見交換が行われました。



エジプトで活動していた元・青年海外協力隊からピパーブ(スカーフ)の巻き方を教わる参加者。

- タイ・スタディツアー報告 ～ツヨミとヨワミが出会ったら世界が変わる!～ 吉田 恵(船と翼の会ふくしま・グローバル3期生)
- マングローブってどんな植物? ～世界各地での植林活動～ 辻 貴行(JICA東北支部)
- ウガンダの水事情と「水の防衛隊」 田中 俊(ふくしま青年海外協力隊の会)
- New Generation ～新しい世代の役割～ 目黒 茜(福島工業高等専門学校4年・グローバル2期生)
- 気候変動とツバル ～島は本当に沈むのか?～ 三村 悟(福島大学連携研究員・元JICA地球環境部)
- 幸せ仕分け～ブータンの人々の生活から～ 菅本 裕介(国際交流協会)
- 協力隊の私が出会った エジプトの女性たち 佐藤 美幸 (ふくしま青年海外協力隊の会・グローバル3期生)
- おいしいチョコレートに向こう側 板橋 美樹(グローバル1期生)・伊東 奏(グローバル2期生)
- Enjoy a Fun English Conversation Time with CIRs! ケビン シャ・ロックラン トランター(国際交流員)
- アートを通じた交流 ～ポーランド・ふくしま～ 豊田 倉満(NPO法人 アール)
- ネパールで野球!? ～野球から始まる笑顔の話～ 加藤直樹(ラリガラスの会・グローバル3期生)

(敬称略)

※グローバル生:(公財)福島県国際交流協会が行う国際理解講座「グローバルレッジ」の受講生。

閉会式 「学び」の共有

閉会式では、参加者・講師が円になって、お互いの「学び」を共有しました。みなさんが感じたことを言葉にすることで、お互いの考えを深めました。みなさんの表情からは、この2日間のセミナーが学びと出会いに充実したものであったことがうかがえました。



参加者の声(アンケートより)

- ◎世界を見つめながら自分を高めるための国際貢献として、少しずつ何か活動に参加して行きたいと思いました。
- ◎幅広い年齢層の方が参加するのでも勉強になった。
- ◎色々な国の事について聴くことが出来て楽しかったです。

たくさんのご参加ありがとうございました!

JICA草の根技術協力事業紹介

草の根技術協力事業について

日本のNGO、大学、地方自治体及び公益法人の団体等がこれまでに培ってきた経験や技術を活かして企画した途上国への協力活動をJICAが支援し、共同で実施する事業です。前号のあだたらでは、県内の2つの団体によるプロジェクトを紹介しました。今回は、伊達市で行われている、果樹栽培技術向上事業をご紹介します。

※福島県を含む東北6県の草の根技術協力事業はJICA東北(宮城県仙台市)が担当しております。
URL <http://www.jica.go.jp/tohoku/>

ウズベキスタン

世界に通用する品質の果物(モモとリンゴ)の栽培方法を普及しています。



実施団体：福島県ウズベキスタン文化経済交流協会・福島県伊達市
案件名：ウズベキスタン共和国・タシケント州及びサマルカンド州果樹栽培技術向上事業
期間：2011年5月～2014年3月

福島県ウズベキスタン文化経済交流協会は、ウズベキスタンの独立後間もない1993年に設立され、使節団や舞踊団の往来などさまざまな活動を行っています。今回のJICA草の根技術協力事業では、日本でも有数の果樹栽培地域である福島の優れた技術をウズベキスタンに導入し、よりよい果物を生産することによって生産農家の生計向上を目指しています。

2012年度はウズベク人研修員を4回に分けて受け入れ、剪定、摘果、梱包、出荷など、一連の作業を学んでいます。また9月には市立伊達東小学校への訪問が行われ、児童は合唱を披露したり、研修員はウズベク語であいさつを教えたりと、お互いの文化交流も行っています。同じく9月、伊達市役所で行われた閉講式では、震災による風評被害もある中で、海外から技術研修員が来福してくれることは、地元農家にとっても励みになっていると、伊達市から研修員に対するお礼も伝えられました。2013年の1月には冬の剪定を学ぶため、3人のウズベク研修員が来日する予定です。

実施団体 福島県ウズベキスタン文化経済交流協会 理事長 宍戸 利夫さん

研修員受入先 佐藤果樹園(伊達市) 代表 佐藤 孝雄さん

シルクロードとして有名なウズベキスタン。その恵まれた気候から様々な果物が生産されていますが、栽培技術は日本と比べると進んでいないのが実情です。そこで、前プロジェクトでは伊達地方の優れた果樹栽培技術と品種の導入に取り組んできました。福島で摘果や剪定を学んだ研修員の活躍のおかげで、モモのあかつきやリンゴのふじなどが今年からはじめて実りました。現在のプロジェクトでは、この成功をウズベキスタン全土に普及するための活動を行っています。

ついに今年、モモ(曉星・あかつき)とリンゴ(つがる・ふじ)が伊達に劣らない品質で収穫できたとの報告を聞いて、これまでの苦労も吹き飛ばしました。最初は、摘果すると収量が減るのでやめて欲しい、剪定も気候が異なるウズベキスタンには適用しない、などの反論がありました。そんな中でも目に見える結果が出たのは、伊達で経験を積んだ研修員の努力と協力のおかげだと思います。この技術がウズベク全土に広がることを期待しています。

24年度2次隊 被災地支援ボランティア活動 9月14日(金)、15日(土) 南相馬市

二本松、駒ヶ根(長野県)の両訓練所では、訓練終了後に東日本大震災の被災地復興支援を目的としたボランティア活動を奨励しています。今回は、南相馬社会福祉協議会を通じて、市内仮設住宅でのサロン活動の他、津波被害を受けた地域の家屋清掃などに、49名が参加しました。作業をする中で、被災地の現在を直に感じたJICAボランティアたちにとって、様々な想いの中、2日間のボランティア活動が終了しました。この支援活動に参加したJICAボランティアたちが任国へ赴いた際に、現地の方々へ日本の復興の様子や、たくさんの支援への感謝を伝えることで、両国のよい関係づくりになることを期待しています。



南相馬へ向かう朝、元気いっぱいのJICAボランティアの皆さん